

2005年度
(平成18年3月期)
決算説明会



エーザイ株式会社
2006年5月16日

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基づくものです。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。

新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

連結決算業績

売上高7期、利益6期連続の最高実績達成

(億円、%)

	2004年度		2005年度			
	実績	売上比	実績	売上比	前期比	増減額
売上高	5,330	100.0	6,013	100.0	113	682
売上原価	985	18.5	1,045	17.4	106	60
売上総利益	4,345	81.5	4,967	82.6	114	622
研究開発費	783	14.7	932	15.5	119	149
販売管理費	2,694	50.5	3,078	51.2	114	384
営業利益	868	16.3	957	15.9	110	89
経常利益	891	16.7	1,000	16.6	112	109
当期純利益	555	10.4	634	10.5	114	79

連結主要指標推移

(円、%)

	一株当たり当期純利益 (EPS)		株主資本利益率 (ROE)		総資本利益率 (ROA)	
	実績	前期比	実績	増減	実績	増減
2001年度	123.5円	157%	10.3%	+ 3.4%	6.6%	+ 2.1%
2002年度	141.2円	114%	10.9%	+ 0.6%	7.1%	+ 0.5%
2003年度	172.1円	122%	12.4%	+ 1.5%	8.3%	+ 1.2%
2004年度	193.4円	112%	12.6%	+ 0.2%	8.7%	+ 0.4%
2005年度	221.9円	115%	13.0%	+ 0.3%	9.0%	+ 0.3%

主要製品売上高

(億円、%)

製品名	所在地	2004年度	2005年度	
		実績	実績	前期比
アリセプト アルツハイマー型 認知症治療剤	計	1,629	1,965	121
	日本	351	423	121
	米国 (百万ドル)	976 (907)	1,199 (1,058)	123 (117)
	欧州	272	299	110
	アジア	29	44	149
パリエット / アシフェックス プロトンポンプ阻害型 抗潰瘍剤	計	1,323	1,545	117
	日本	194	276	142
	米国 (百万ドル)	1,041 (968)	1,143 (1,009)	110 (104)
	欧州	68	90	134
	アジア	21	35	169
ゾネグラン てんかん治療剤	計	111	131	118
	米国 (百万ドル)	111 (104)	127 (112)	114 (108)
	欧州	-	4	-
	アジア	0	1	-

所在地別売上高

(億円、%)

	2004年度		2005年度		
	実績	構成比	実績	構成比	前期比
日本	2,683	50.3	2,851	47.4	106
北米	2,145	40.3	2,531	42.1	118
欧州	383	7.2	455	7.6	119
アジア他	119	2.2	176	2.9	148
海外計	2,647	49.7	3,162	52.6	119
合計	5,330	100.0	6,013	100.0	113

(外部顧客に対する売上高)

所在地別営業利益

(ロイヤルティ控除前)

(億円、%)

	2004年度		2005年度			
	実績	構成比	実績	構成比	前期比	増減額
日本	401	43.9	363	34.8	90	38
北米	443	48.5	581	55.8	131	138
欧州	49	5.3	69	6.7	142	20
アジア他	21	2.3	28	2.7	134	7
海外計	513	56.1	678	65.2	132	166
小計	913	100.0	1,041	100.0	114	127
消去・全社	45		84		185	38
合計	868		957		110	89

Eisai Inc. 損益実績

(百万ドル、%)

	2004年度		2005年度			
	実績	売上比	実績	売上比	前期比	増減額
売上高	2,001	100.0	2,248	100.0	112	247
アリセプト	907	45.3	1,058	47.1	117	151
アシフェックス	968	48.4	1,009	44.9	104	41
ゾネグラン	104	5.2	112	5.0	108	8
フラグミン	-	-	36	1.6	-	36
営業利益	96	4.8	164	7.3	171	68
当期純利益	62	3.1	115	5.1	186	53
営業利益 (ロイヤルティ控除前)	402	20.1	479	21.3	119	77

キャッシュ・フローの状況

(億円)

	営業キャッシュ・フロー		資本的支出等		フリー・キャッシュ・フロー	
	実績	増減額	実績	増減額	実績	増減額
2003年度	727	151	238	27	489	178
2004年度	492	235	387	149	105	384
2005年度	871	379	435	48	436	331

ドラマティック リープ プランの スタート年：2006年度

- パイプラインの状況
- 新薬創出力の向上とR & Dマネジメントの強化
- トランスフォーメーションの推進
- グローバル化の質的転換
- 株主還元の実現



パイプラインの状況

—臨床導入から申請中まで新製品候補20品目を擁する—

申請中	ケアラム : 免疫グロブリン産生抑制 イノベロン : ナトリウムチャンネルモジュレーター ラヒーラ : ヒト抗ヒトTNF モノクローナル抗体	関節リウマチ てんかん 関節リウマチ
フェーズ	E7389 : 微小管伸長阻害 クレブジン : DNAポリメラーゼ阻害 E2007 : AMPA受容体拮抗 KES524 : 脳内セロトニンとノルアドレナリン再取り込み阻害 E5564 : エンドトキシン拮抗	がん 慢性B型肝炎 パーキンソン病 肥満症 重症敗血症
フェーズ /	E2014 : B型ボツリヌス毒素 AS-3201 : アルドース還元酵素阻害 E0167 : ビタミンK ₂	痙性斜頸 糖尿病性神経障害 肝細胞がん再発抑制
フェーズ	E5555 : PAR-1阻害 E7070 : 細胞周期G ₁ 期標的	急性冠症候群 がん
フェーズ	E7820 : 2インテグリン発現阻害 E7080 : VEGF受容体チロシンキナーゼ阻害 E7974 : チューブリン重合阻害 E3210 : アデノシン受容体拮抗 E6070 : 炎症性サイトカイン産生抑制 E1224 : エルゴステロール生合成阻害 E2012 : セクレターゼモジュレーター	がん がん がん 過敏性腸症候群 関節リウマチ 真菌症 アルツハイマー病

新薬創出力の向上と R & D マネジメントの強化

1. トランスレーショナルリサーチ領域の充実

- カン研究所の神戸移転: アカデミアとの接点強化
- 新規バイオマーカー探索、再生医療、イメージング、-omics 技術取り込みの推進

2. 探索研究能力の向上

- 日・米・欧研究所のパワーアップによる三極における化合物選択力の向上

3. 臨床研究能力の拡充

- 日・米・欧の一体化: 臨床研究主要機能(臨床薬理、バイオスタティスティックス、データマネジメント等)の強化
- グローバル臨床責任者の米国駐在: エーザイ グローバル クリニカル ディベロップメントによる日・米・欧・アジアの一元的管理
- アジアにおける臨床マネジメント拠点の設立

日米欧3極での探索研究能力を向上

● ボストン研究所 新キャンパス稼動 (2006年度下期)

- 化合物選択能力の飛躍的強化
- 総面積 5万ft²→ 20万ft²へ
- サテライトラボを統合し生産性・効率性アップ



ボストン研究所

● 英国ハットフィールドプロジェクト起動

- 化合物最適化研究機能の拡張
- ロンドン大学内のラボと協働



欧州ナレッジセンター(イメージ)

● カン研究所をバイオクラスター(神戸) に移転・拡充 (2006年度下期)

- トランスレーショナル研究機能の拡充
- アカデミアとの接点・交流の推進



カン研究所(イメージ)

新薬創出力の向上と R & D マネジメントの強化

4 . 領域集中

Integrative Neuroscience、Integrative Oncology

5 . Unmet Medical Needsへの挑戦

E 7 3 8 9、E 2 0 0 7、E 5 5 6 4、A S - 3 2 0 1、E 5 5 5 5、
E 2 0 1 2、E 7 9 7 4

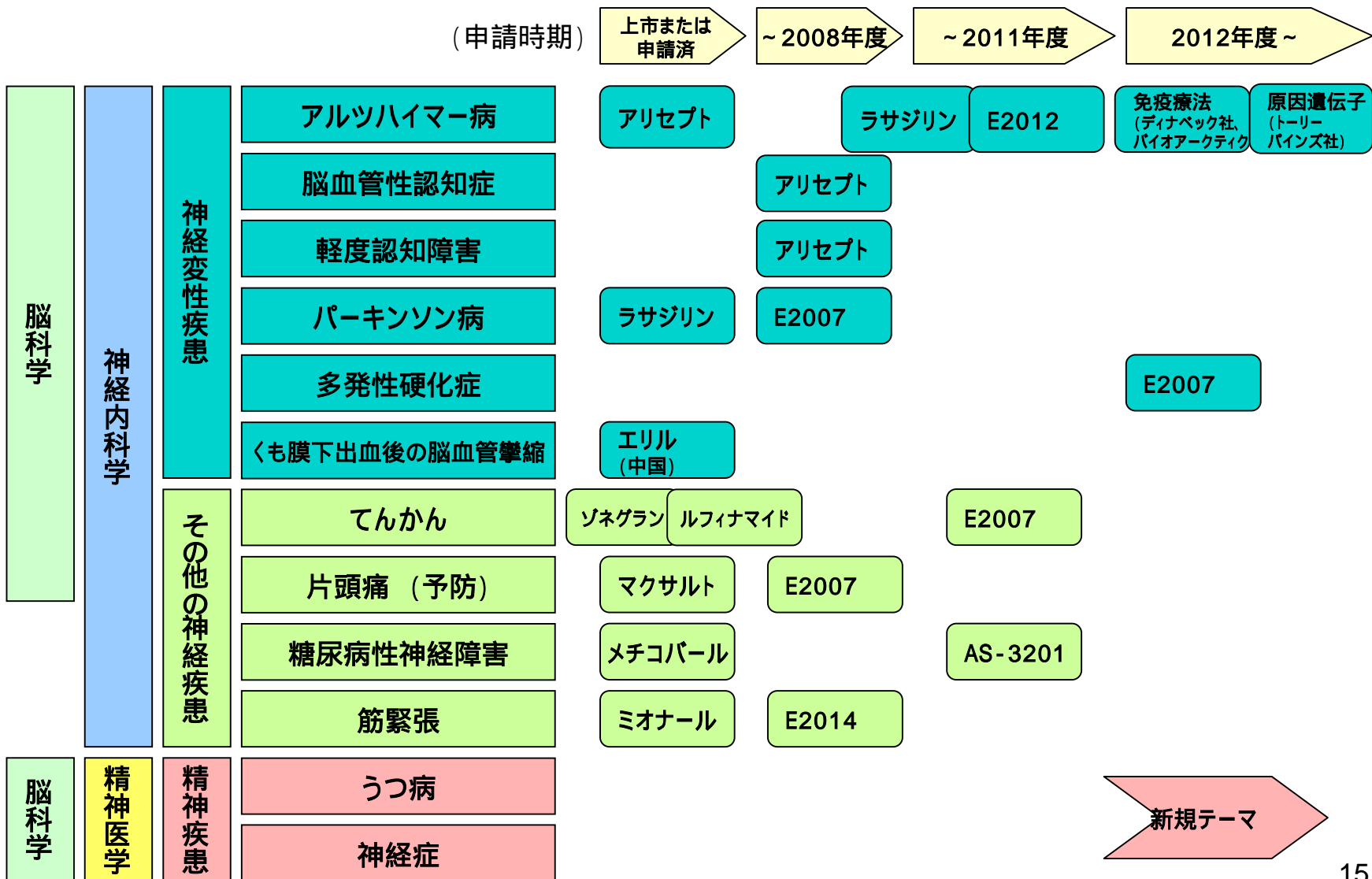
6 . グローバル製品の有用性拡大

アリセプト、パリエット、ゾネグランの適応拡大ならびに
新規製剤の開発

7 . プロジェクトマネジメント力の強化

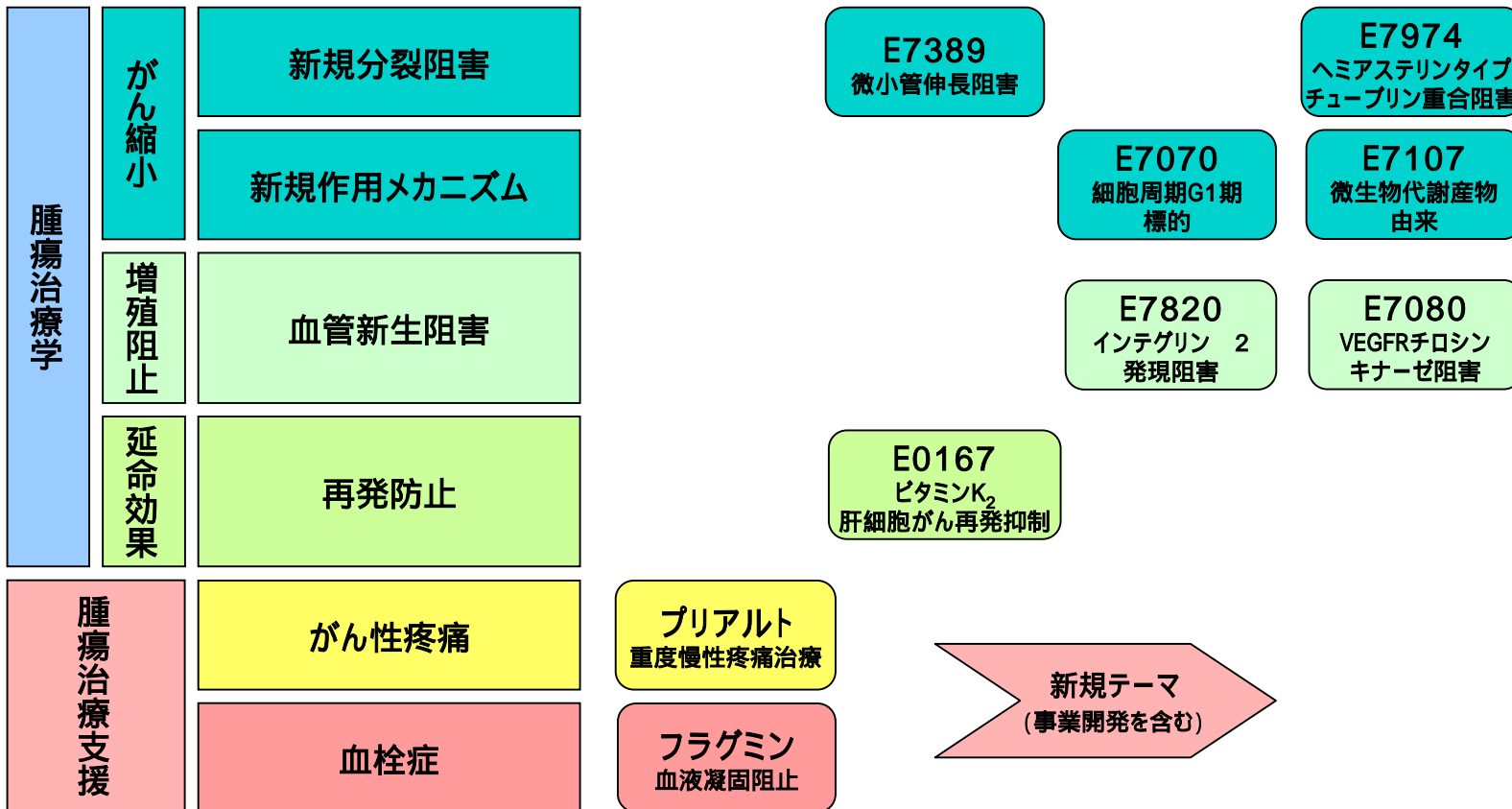
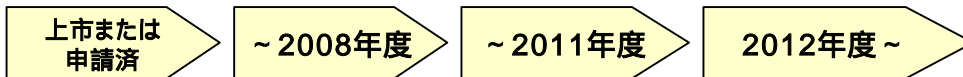
- エーザイ R & D マネジメントカンパニーによる国際ナショナルプロジェクトチームの直接管理
- 目標の共有と統一された意思によるマネジメント：
研究開発機能の全責任者、マーケティングおよび薬事・安全性管理を担当する責任者による意思決定

Integrative Neuroscience領域の品揃え



Integrative Oncology領域の品揃え

(申請時期)



E7389: 微小管伸長阻害剤

● 乳がん

- 3rdライン サブパートH申請用試験を実施中、
2006年度米国申請予定
- 2ndライン フェーズ 試験を2006年度第1四半期に
開始予定
- 国内では2006年度第1四半期にフェーズ 開始予定
フェーズ 実施後に、海外のフェーズ 、 試験成績と
合わせて2009年度国内申請予定

● 非小細胞肺癌

- 1stライン フェーズ / 試験 2006年度第1四半期に
開始予定

● 前立腺がん

- フェーズ 試験を実施中、2006年度中のPOCを目指す

● 肉腫、卵巣がん

- フェーズ POC試験を2006年度第2四半期に開始予定

E2007: AMPA 受容体拮抗剤

- パーキンソン病

- 欧州でフェーズ Ⅲ 実施中、2007年度欧米申請予定
- 国内フェーズ Ⅲ 準備中
海外データの活用による国内申請予定(2010年度)

- 片頭痛予防、てんかん

- POC試験実施中
- 2006年度中にPOC試験終了予定

- 多発性硬化症

- 2006年度下期にPOC試験開始予定

E5564: エンドトキシン拮抗剤

●重症敗血症

–マルチナショナル・フェーズ 試験を2006年度第1四半期に
開始予定

–FDAとのEnd-of-Phase ミーティングおよび原薬・製剤に関する
ミーティングを実施し、フェーズ プロトコルの確認を終えた

●海外で日本人ボランティアによるフェーズ 試験を 準備中

●国内施設を含むフェーズ 試験を実施し、2009年度 日米欧同時申請を目指す

• AS-3201: アルドース還元酵素阻害剤

対象疾患: 糖尿病性神経障害

- フェーズ / 試験を実施中(大日本住友製薬)
- 2006年度中に行うEnd-of-Phase ミーティングの結果により、エーザイがフェーズ 試験を実施予定

• E5555: トロンビン受容体拮抗剤

対象疾患: 急性冠症候群(不安定狭心症、非ST上昇心筋梗塞)患者の心イベントの予防

- フェーズ で安全性、体内動態、薬理作用を確認
- フェーズ 実施中(米・欧)
- 国内フェーズ 実施中

• E2012: セクレターゼモジュレーター

対象疾患: アルツハイマー病

- 2006年3月、米国IND提出
- 2006年度第1四半期にフェーズ 開始予定
- フェーズ で血中、脳脊髄液中のA 量を測定しProof of Principleを目指す

• E7974: 新規チューブリン重合阻害剤(カイメン由来化合物)

対象疾患: 各種がん

- フェーズ 実施中(米国)
- / の両チューブリンに結合する新規ヘミアステリンタイプのチューブリン重合阻害剤
- 多剤耐性の原因となるP-糖タンパク質によるがん細胞からの排出がないため、P-糖タンパク質が高発現している大腸がんへの効果に期待

アンメット メディカル ニーズへの挑戦

(申請時期)

~2008年度

~2011年度

2012
年度~

E7389	乳がん	米 (サブパートH)	日	米・欧	
	非小細胞肺がん			米・欧	
	前立腺がん				未定
	肉腫、卵巣がん				未定
E2007	パーキンソン病	米・欧		日	
	片頭痛予防		米・欧		
	てんかん			米・欧	
	多発性硬化症				米・欧
E5564	重症敗血症		日・米・欧		
AS-3201	糖尿病性神経障害		米・欧		
E5555	急性冠症候群(不安定狭心症、非ST 上昇心筋梗塞)患者の心イベントの予防			米・欧	
E2012	アルツハイマー病			米・欧	
E7974	がん				米・欧

グローバル製品の有用性拡大

(申請時期)

申請済

~ 2008年度

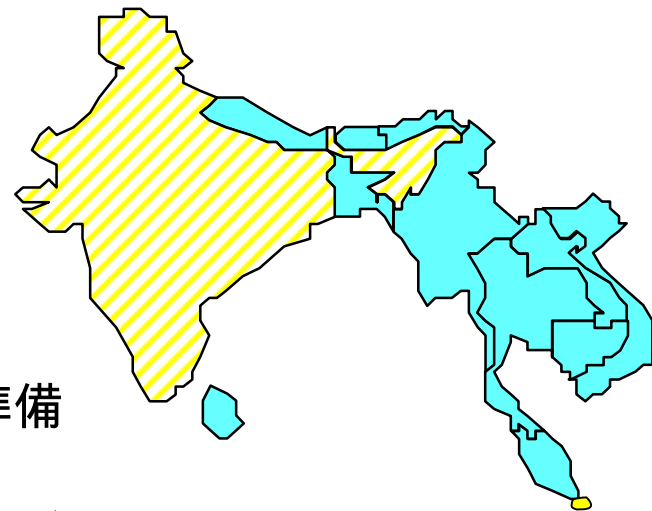
~ 2011年度

		申請済	~ 2008年度	~ 2011年度
アリセプト	脳血管性認知症	米	欧	
	高度アルツハイマー病	日・米・欧		
	パーキンソン病に伴う認知症		欧	
	軽度認知障害 (MCI)		米	
	液剤	欧		
	徐放性製剤			米・欧
	経皮吸収型テープ製剤			米・欧
アシファエックス パリエット	H.ピロリ除菌	日		
	非びらん性胃食道逆流症	日		
	症候性胃食道逆流症の間歇療法		米	
	長時間作用型製剤			米・欧
	OTC		米	
ゾネグラン	てんかん単剤療法		欧	
	口腔内崩壊錠		欧	

トランスフォーメーションの推進

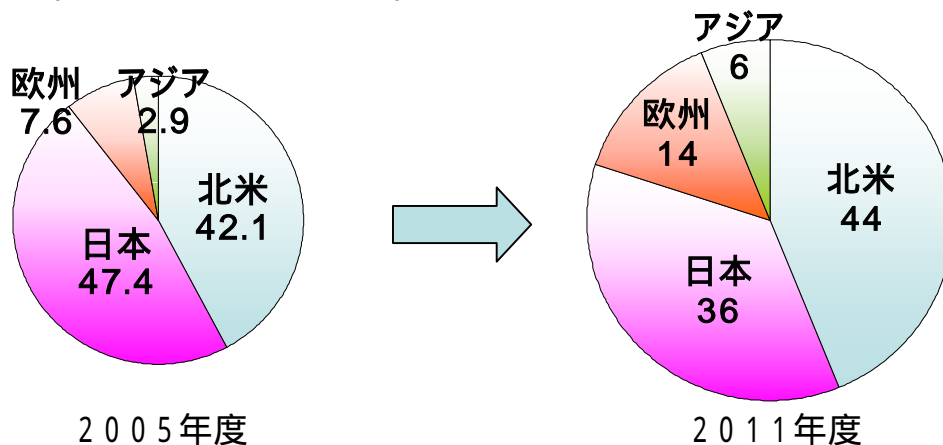
< 2006年度のアクションプラン >

- **トランスフォーメーション・プロジェクト マネジメント**
 - プロジェクト・マネジメント オフィスの設置
 - 現地責任者の雇用
- **生産**
 - 原薬・製剤工場建設のための土地の購入と基本設計
 - プロセス研究とのコラボレーションの検討
- **プロセス研究**
 - 研究施設のロケーション決定と基本設計
- **製剤研究**
 - 製剤研究技術調査の実施
- **臨床研究**
 - アジア臨床研究センターの開設準備
 - データマネジメント・統計解析機能の移行準備
- **創薬研究**
 - アジア諸国におけるアンメットメディカルニーズの調査とその充足を目指したテーマ検討



グローバル化の質的転換

- Global構成比(日・米・欧ア)のバランス



- 新エリア / 国への進出

イタリア、スイス、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、オーストリア、アイルランド、オーストラリア、ポルトガル、ロシア、トルコ、カナダ、メキシコ、ブラジル...

- World Headquarters (WHQ) 体制への移行

- 自らの責任でグローバルに自立する; 日・米・欧・アジアの自社Value Chainの高速回転
- 日・米・欧・アジアの 四Regional体制
- WHQ Management CommitteeによるGlobal Policyの決定

連結業績見通し

(億円、%)

	2005年度		2006年度		
	実績	売上比	見通し	売上比	前期比
売上高	6,013	100.0	6,400	100.0	106
売上原価	1,045	17.4	1,100	17.2	105
売上総利益	4,967	82.6	5,300	82.8	107
研究開発費	932	15.5	1,050	16.4	113
販売管理費	3,078	51.2	3,240	50.6	105
営業利益	957	15.9	1,010	15.8	106
経常利益	1,000	16.6	1,040	16.3	104
当期純利益	634	10.5	670	10.5	106
EPS (円)	221.9		234.4		106

株主還元の実

年度	中間 配当	期末 配当	年間配当	配当 性向	ROE	DOE
2003	18円	18円	36円	20.9%	12.4%	2.6%
2004	21円	35円	56円	29.0%	12.6%	3.7%
2005	40円	50円	90円	40.6%	13.0%	5.3%
2006 (予定)	55円	55円	110円	46.9%	12.6%	5.9%